



制度作りに留まらない社会労務士として働き方をサポート 女性のキャリアを支援し未来につながる一步を作る志とは

こんにちは。サポート委員会の岡崎智紀です。第12回立志財団会員ロング・インタビューは社会保険労務士法人ネクステップの菊池 麻由子（きくち まゆこ）さん。制度作りだけに留まらないコンサルティングで企業や社員の働き方をサポートし、女性のキャリア支援を実現する志を語っていただきました。

人間関係に根ざした社会労務士として

—まず、現在のお仕事について教えていただけますか？

菊池：社会保険労務士としてこの4月に社会保険労務士法人ネクステップという法人を立ち上げました。社会保険労務士としては11年前に資格を取り、そこから10年一つの事務所で働いて去年の8月に退職して9月に独立をしたところです。社労士としてその10年間で300社以上のクライアントさん、1人のところから500人規模の会社さんまで、労務全体の領域で携わらせていただきました。私はどちらかというとBtoBで企業様向けにコンサルを提供しています。

私は今まで手続きや制度設計をやってきましたが、何か制度を作ったからといって急に会社が良くなることはまずありません。あと法律だけで解決できることもまずありません。コミュニケーションや組織風土だったり、ちょっとした声かけだったりとか、人間関係が組織の発展に重要だなというのを感じてきました。つまりソフトとハードの両方を伴わないと組織って良くならないということの思い、キャリアコンサルタントの資格も取得しました。社員さんのキャリア、何のために働くのか、ご自身がどうやって成長していくのかと、会社の成長を両方サポートすることが実際すごく重要だと思い、そこを両方やるために独立したんです。

入社前の十分な説明や入社後に自分の状況をきちんと伝えられる環境があれば離職も減って企業さんにとっても採用にかかるコストも減ります。せっかく仕事を覚えてもらったのに辞めてしまうこともたくさんあって、成長を減速させてしまっているの、そういうところが解消できれば会社にとっても日本のためにも貢献できていると思います。／

法律・制度から一步踏み込んだコンサルを

—そこがご自身の社労士としての強みなのですね。

菊池：よくクライアント様からは相談しやすい、一緒に考えてくれるとおっしゃっていただいています。例えば嬉しかった話で言うと、IT企業のクライアントさんで入って1年経たない若手の社員さんが転職を考えていると経営者の方に相談したと連絡が入ったんです。



その理由というのがびっくりしたんですが、手持ち無沙汰が多かったので自分の実力不足で必要とされていないのではないかとこのを思っていたらしいんです。それで、実力をつけるために転職サイトに登録してみたら面談まで進んで内定まで行きそうなので辞めようと思いましたとおっしゃったんですね。でも経営者さんの印象としては、しっかり仕事をしてくれているしこれからの成長も期待もしていました。仕事もあまり負荷をかけてはいけないと思ってたくさん渡していなかったんです。それを信頼されてないんじゃないかとすれ違いが起きてしまっていたんですね。であれば、お互いの進捗確認とか、社内に教育ツールを導入してみるとか経営者さんも考えて色々話したら、結果的には内定を断って退職は防げたんです。

法律や就業規則だといついつまで退職届出してね、で終わってしまうところですが、一步踏み込んでどういう背景でそうなったのかを見つけるのがすごく大事です。次の手が考えられますからね。教育の場が必要だったのか、フォローできる先輩が必要だったのかと色々考えられるので、辞めるにしても辞めないにしてもきちんと話を聞くのが大事だなと思って、コンサルティングをしています。

⇒⇒⇒裏面に続く

得意分野を活かしてチームを伸ばす

—社労士になられてからの苦労はありましたか？

菊池：それまで人事の経験が全くなかったので、手続きとか給与計算ってどっちかという苦手な仕事で、覚えないういけないことがたくさんあって最初の3年間は苦しかったですね。ずっと一日中机に向かって事務作業をすることも今までなかったので…。でも3年間みっちりやったことで基礎的なことは学べたので今となっては良かったと思います。4年目からクライアントさんのところに訪問してお悩みを聞いて提案するようになり、そこで本格的に社労士の仕事って楽しいって思えるようになりました。

ずっと机に向かって事務をやっているというのが苦しかったとき、一緒にチームの女性に、ランチでその話をしたんですよ。そしたら「え、私そっちが好きなんです」「外出しないで一日事務をしているのがすっごい好きなんです」って言われたんです。そういう人があるのかと驚いたのと同時に、これは得意なお互いやった方がいいと思いました。



それで私が苦手なところを彼女に任せるようになったら彼女も喜んで協力してくれました。「私がやるのでどんどん仕事振ってください」って。そこからチームも凄く成長したんですよ。やっぱりそういうのも含めて、ちゃんと話した方が良い関係で仕事を進められますね。最初はこんなに仕事を任せたら迷惑かなって遠慮していたんですけど、話してみたらどんどん持ってきてくださいと言ってくれて凄くいい関係で働けました。誰とチームになるか、この人をどうやって活かすかってすごく大事だなと思いましたね。彼女も信頼されている感覚で生き活きと責任を持って仕事してくれるようになったんです。

豊かな人生に向けて次の一歩をともに

—最後に今後の展望を教えてください。

菊池：力を入れていきたいのは女性の活躍推進です。女性には自分ではコントロールできない体の悩み、出産や女性特有の病気であったり、家族の介護であったり、いろんな要因で思うように働けないことがあります。 ↗

また男性側は、制度は作るけどどうやってサポートしたら良いかわからない、聞きづらいというのがあります。その橋渡しとして男性にも知ってもらいたいです。女性が有利になるようにしたいわけではなくて、お互いにわかり合いながら働ける環境を目指して取り組んでいきたいですね。

私自身、個人事業主として独立もしたし、今は法人の経営者でもあって、女性としてもいろんなことを経験してきました。なので、これから自分のキャリアをどうしたいか考えている女性のサポートをしたいなと思っています。いろんな女性がいると思うんですけど、多くの選択肢を持っていた方が豊かに生きられると思っています。長い人生を考えた時に自分の体の問題だけでなく、ご主人の収入だけに頼っているというのも、もしご主人に何かあったときに選択肢が狭くなってしまいます。そんなとき自分のキャリアを諦めてしまう気持ちになるかもしれません。

でも私は自分の経験から、いつでもキャリアは切り開いていけると思っているんです。何も準備ができていないまま苦しくなった時のことを考えると、すぐに起業でなくても何か自分の好きなことや得意なこと、そんなちょっとしたことで自分の未来を考えておくと豊かな人生につながると思います。そういう支援を考えていきたいですね。総合的な研修というよりは、個人で生活も人生観も違うので一人一人の対応がこれからは必要だと思っています。

私の真志命は「未来につながる次の一歩をともに作る」ということです。私に関わることで何か次の一歩を踏み出してみようかなとか、小さいことでもいいから進んでいこうと思える関係を作っていくのを志にしているの、それを実現していきたいです。女性とは言っていますが男性も同じだと思います。これからもっと大変な時代になっていく中で、女性も男性も自立できるとお互いに助け合うこともできるはずですよ。

インタビュアー：岡崎智紀

編集後記

社会労務士と聞くと制度設計や手続き周りの仕事だけイメージされる方も多いのではないでしょうか。組織はあくまで人対人。その根本に向き合ってコンサルを行う菊池さんの人間中心の想い溢れるお話を聞かせていただきました。本誌に収まりきらなかった菊池さんの人間関係を重視する原体験となった婦人雑貨時代のエピソードは財団HPで公開しています。こちらも是非ご覧ください。

